

2021年度 全国マンツーマンディレクター会議

2021/12/12

JBAマンツーマン推進プロジェクト

1. JBA組織とマンツーマン推進プロジェクトの位置づけ 5分

2. 2021年の総括 <報告> 5分

3. 2022年の方向性 <説明> 20分

4. マンツーマン推進・コミッショナー対応の解説 <説明・質疑> 35分

<休憩> 5分

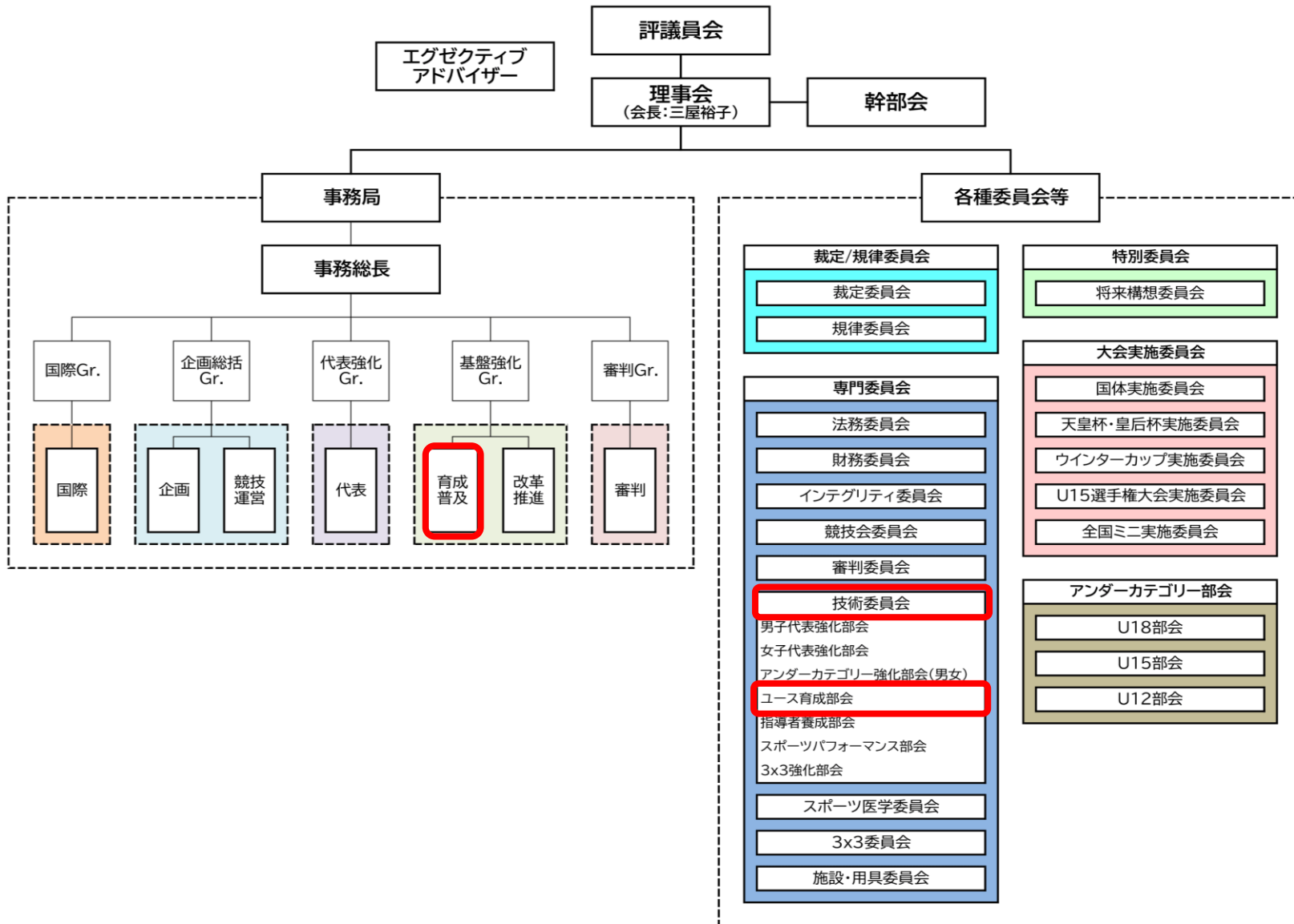
5. ブロック別・意見交換 <ディスカッション> 20分

6. 発表 20分

7. その他

**1. JBA事務局・委員会、
マンツーマン推進会議構成、任期、
所管事項、任期中取り組み事項**

① JBA組織図 (2021年10月以前)



① JBA事務局体制（新旧対比）

2021年10月以降

現行体制

公益財団法人 日本バスケットボール協会
会長 三屋裕子

事務局
事務総長 浜武義生



■ 主な変更

- ・ 経営企画Gr⇒経営戦略Grに変更
- ・ 基盤強化Grと企画Secの統合
- ・ コンプラ推進Grの新設設置
- ・ 競技運営Grの新設
- ・ 競技Secと運営Secの分離
- ・ 普及育成Secと代表Secを強化育成Grに再編
- ・ 指導者養成Grの新設
- ・ FBWC2023 LOC事務局の新設

① 各種委員会（新旧対比）

■ 新

裁定・規律・インテグリティ
裁定委員会
規律委員会
インテグリティ委員会

専門
法務委員会
財務委員会
競技会委員会
審判委員会
技術委員会
スポーツ医学委員会
3x3委員会
施設・用具委員会
TO委員会
指導者養成委員会
アスリート委員会

特別委員会
将来構想委員会

その他の委員会

大会実施
国体実施委員会
天皇杯・皇后杯実施委員会
ウィンターカップ実施委員会
U15選手権実施委員会
全国ミニ実施委員会
U18リーグ戦推進委員会

その他

アンダーカテゴリー
U18部会
U15部会
U12部会

■ 旧

裁定・規律
裁定委員会
規律委員会

専門
法務委員会
財務委員会
インテグリティ委員会
競技会委員会
審判委員会
技術委員会
スポーツ医学委員会
3×3委員会
施設・用具委員会
TO委員会

特別委員会
将来構想委員会

その他の委員会

大会実施
国体実施委員会
天皇杯・皇后杯実施委員会
ウィンターカップ実施委員会
U15選手権実施委員会
全国ミニ実施委員会

その他

アンダーカテゴリー
U18部会
U15部会
U12部会



1. 所管事項、任期、メンバー、任期内実施目標の確認

■ 会議構成

プロジェクト外長 山本明（JBA）

メンバー 村上佳司、牧野広良、白鳥聡、菅祐介、菅原芳雄、青柳彰、加藤暁生、松澤年紀

事務局 佐藤洋佳

■ 任期

・2021年10月～2023年9月評議員会終了時まで

■ 所管事項

- ・U12U15世代へのマンツーマン推進事業の管轄。
- ・マンツーマンを推進するための方針、方法論、内容の検討。
- ・マンツーマンを推進するための組織の管轄。

■ 任期内の目標

- ・ニーズに沿った子供たちの成長を促すための「健全な競技環境整備の推進」についての検討。
- ・マンツーマンディフェンスの指導方法資料の整備と周知。
- ・マンツーマンオフェンスの年代別指導内容、指導方法論の整備と周知。

2. 2021年の総括

【U12】**1. マンツーマン推進の取り組み****(1) ブロック育成センターにおける講習会**

すべてのブロックにおいて、マンツーマン推進の講習会を実施。基準規則の捉え方・コミッショナーの運用等以下の内容で講習会を行う中で、共通認識を深めることにより、マンツーマン推進の礎を構築した。

- ①マンツーマンの必要性
- ②マンツーマンディフェンスの基準規則のポイント
・基準規則・処置と規則・マンツーマンコミッショナー
- ③マンツーマン推進ケース動画
- ④マンツーマン推進研修問題
- ⑤質疑応答

(2) 全国ミニバスケットボール大会に向けてのコミッショナー体制の確立

2020年度全国大会の成果と課題を受け、2021年度全国大会におけるコミッショナー体制を確立していく中で、マンツーマンの推進を行った。

(3) マンツーマン推進指導連携

各ブロック育成センター講習会受講者の、マンツーマン推進における日常活動での質疑に関して、応答対応していくことができる繋がりを作り、連携を図った。

2. 成果

- (1) マンツーマンにおける理念の推進が、各ブロック内を通して浸透してきている。
- (2) コミッショナーの育成が進み、判定の考え方の方向性がまとまってきている。
- (3) 各ブロックの現状を鑑みた取り組みが行われている。それに伴いリーダーの育成が進んできている。

3. 課題

- (1) 勝利至上主義的な考えの指導者に対する、マンツーマンにおける理念の推進。
- (2) コミッショナーの育成
 - ①基準規則の下、ぶれない判定
 - ②講習会の実施
 - ③人員確保
- (3) 組織の充実
 - ①組織の取り組みの活性化（講習会・コミッショナー反省 等）
 - ②リーダーの更なる育成
 - ③連携強化（U15・JBA）

【U15】

2021年度U15選手権の課題に対して、全中ブロック大会にて講習会を実施した。課題は、大きく次の2つであった。

1. 赤旗対応時の処置について（審判との連携）
2. マンツーマンの見極めの視点
 - ①マッチアップしているか ⇒ 人「マン」と場所「エリア」の考え方
 - ②オフェンスのスタート、カッティング、トラップの後、ヘルプローテーション

- ・ビデオ教材を有効活用したことによる共通理解の浸透
- ・各ブロック、全中においても様々なケースが発生したが、概ね対処できたと報告があった。
- ・JBAと各ブロック代表コミッショナーと連携がとれ、敏速に問題事象の解決と伝達が行えた。
- ・今後もJBA、ブロック、PBAが連携をとることが望ましい。

<今後の課題>

- ・マンツーマン/コミッショナーに関するコーチとの共通理解（例：代表者会議での報告）
- ・コーチに対する「マンツーマンの必要性」・「マンツーマンの違反行為に関する事例」などの伝達講習会の開催（例：DCの活用）
- ・マンツーマン研修会の充実・マンツーマンコミッショナーの育成
- ・マンツーマンコミッショナーのPBA内の組織の確立

期日	対戦	試合数	赤旗			
			警告	M	合計	1試合平均
1月4日	男女1回戦	27	4	2	6	0.22
1月5日	男女2回戦	28	4	2	6	0.21
1月6日	男女3回戦・準々決勝	24	0	2	2	0.08
1月7日	男女準決勝・決勝	6	0	0	0	0.00
合計		85	8	6	14	0.16

【大会を通してのまとめ】

- ・M2回の退場はなし
- ・審判と連携し、判定から処置までが円滑に実施された

<処置>

- ・処置の誤り3件 → 3回戦以降はなし
- ・コーチへの説明：チェックポイントに従って簡潔に行う、議論はしない
- ・コーチが引き下がらない場合は遅延行為でTFの対象（審判と確認済み）

<判定>

- ・部分的ではなく全体を見極める、意図的な行為かどうか

※ 赤旗の上がったチームの内、12/14は当該試合で敗退

【大会第1日目：1/4】

- ・赤旗の処置の誤り：1回目の警告でMの処置（FT1本+BP）→ 2件
- ・Mのケース：2件とも4Q残り2:00以下で1回目
- ・黄旗の処置の誤り：警告は与えない → インターバルでベンチに声をかけ、注意を促す（≠警告）

＜ベンチ対応について＞

- ・警告の内容や質問への回答は、チェック項目に従って簡潔に答え、議論はしない

＜審判との確認事項＞

- ・コーチが引き下がらない場合は審判が介入し、遅延行為としてTFの対象とする

【大会第2日目：1/5】

- ・赤旗の処置の誤り：4Q残り2:00以下で1回目のMで警告の処置 → 1件
- ・Mのケース：2件とも4Q残り2:00以下で1回目
- ・処置が迅速に行われた（各ケースとも1分程度）
- ・審判との連携も円滑に行われ、警告、Mとも迅速・明確に処置されている

＜判定について＞

- ・マンツーマンディフェンスの見極め、部分的なプレーだけではなく、意図を見極めることが大切

【大会第3日目：1/6】

- ・赤旗の処置は適切に行われた
- ・赤旗の後の説明は、両チームのコーチに行く → 一方のチームのコーチのミニ行われたケースあり
- ・準々決勝よりMCを2名配置して実施 → MCより自発的に提案、実施された

【大会最終日：1/7】

- ・赤旗の処置となるケースはなく、円滑に実施された。

	総試合数	赤旗 本数	赤旗 割合
3月28日(日)	女子 32G	9本	7試合 (21.8%)
3月29日(月)	女子 28G	4本	4試合 (14.2%)
3月30日(火)	男子 31G	7本	5試合 (16.1%)
3月31日(水)	男子 26G	8本	5試合 (19.2%)
合計	計 117G	28本	21試合 (17.9%)

1. レフリーとの問題

- ・3/28 第1ゲームにおいて、レフリーよりコミッショナーに対して「この試合では赤旗をあげないように」との発言、また試合中に黄色旗をあげた際に「なぜ（旗を）挙げるのか」という発言があったと試合後にコミッショナーより報告有り。

2. インテグリティ

- ・3/29 女子●●のチームのコーチが自チームの選手に対して「ボール持たなくて良い、立ってるだけでよい」などのハラスメントと捉えられる発言をコミッショナーが聞く。レフリーには聞こえていなかった。ゲーム後にコミッショナーから報告有り。
- ・宇田川インテグリティ委員長に報告、現行犯でないので対応が困難であることから、レフリーとの共有に留め、今後レフリーもベンチの言動に注意をすることとした。

3. 赤旗対応

- ・ 3/28 女子●●のチームのディフェンスはマッチアップゾーン的なディフェンスが指導されており、多くの旗が上がった。指導されるものの子供達は対応がすぐにできず、泣きベソをかきながらプレーする状況となった。試合後、HC・ACに対して話をする機会を持った。
- ・ 子供たちが「マイナス」の気分で全国大会を終えないようにお互いに考えるということとした。
- ・ 3/29朝の打ち合わせにて山本より「子供たちを泣かせることがコミッショナーの本意ではないので、技術不足ということ、習慣は変えられないことで特別に対応して欲しい」と当日担当コミッショナーに依頼。相手チームコーチ、●●のコーチにも伝えた。但しゲーム後●●のコーチに特殊戦術をU12で指導するのではなく、基本技術を伝えて欲しいとの話をした。

2021年度全中大会・全中ブロック大会に向けて

1. 2021年度方針はこれまでと同様の方針で実施

2020年度コロナ禍により、活動が停止

2021年度は2020年12月13日マンツーマンディレクター会議で確認した方針にて実施

2. 重要な視点

1) マッチアップしているか、マッチアップしようとしているか

(人=マンツーマン、場所=ゾーン/**エリア**)

→オフェンスのスタート

→カッティングについていくか

→トラップの後

→ペネトレーションに対するヘルプの後

2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン (ボールとマークマン) を取ろうとしているか

3. マンツーマンコミッショナーの役割、判定と概要

2021年度全中大会・全中ブロック大会に向けて

3. マンツーマンコミッショナーの役割、判定と概要

- 1) 制限区域内のオフボールプレイヤーへのトラップ 規則5-2-2
※ スローインで背中を向けることを意図的にするのは赤旗対象 ビジョン取れていればOK
- 2) フルコートのスローインマッチアップ 規則7-1-2
- 3) 赤旗時の対応
1回目はそのまま
2回目は「ファウル等の処置」→「マンツーマンペナルティの処置」ボール・ホールド・ポジションからスタート
- 4) ブザーが遅れた時の対応 得点が入っても認めない
- 5) 連続トラップの扱い 人→トラップ=OK 人→エリア→トラップ=×
※ トラップ後はマッチアップを目指すことが基本
- 6) コミュニケーションをとるタイミングを計る コーチングの邪魔をしないように
- 7) インサイドで動かない選手 オフェンスも動きがなければ判定しようもない
- 8) 一発赤でも一回目は警告、2回目からマンツーマンペナルティ

群馬全中 黄旗・赤旗集計

	総試合数	黄旗 本数	赤旗 本数	赤旗 割合
8月19日(木)	男子 22G	16本	2本	2/22試合(9%)
8月19日(木)	女子 22G	15本	2本	2/22試合(9%)
8月20日(金)	男子 12G	10本	0本	0/12試合(0%)
8月20日(金)	女子 12G	6本	0本	0/12試合(0%)
8月21日(土)	男子 0G	-	-本	-
8月21日(土)	女子 3G	1本	0本	0/3試合(0%)
合計	計 71G	48本	4本	4/71試合(5.6%)

3. 2022年の方向性



🏀 「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2021」全編

<http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/JBS2021.pdf>

🏀 「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2021」簡易版

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/JBS2021_simple.pdf

🏀 未来ストーリー

<https://youtu.be/iSd8wJE49Y0>

対象者		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
エリートタレント 競技志向	目的									個の育成 将来の土台を築く ポジションを決めない		高度な技術戦術習得準備 より競争的に ポジションを徐々に特化		より高度な技術戦術習得 高いレベルの競争 プロへの移行			プロレベルの技術戦術	
	バスウェイ 場=日常									中学部活、クラブ、BコースU15(U18)			USA NBA Academy 等 海外 高校部活、クラブ、BコースU18			BLG、WJBL NCAA、海外大学、クラブ 国内大学		
	バスウェイ 経験=年数回									全中 U15選手権 Bコース大会U15/U18 リーグ戦 都道府県DC ナショナルDC	全中 U15選手権 Bコース大会 U15/U18 リーグ戦 都道府県DC ナショナルDC U16代表候補	U16国体 ブロックリーグ U16代表候補 U18代表候補	高校新人 ブロックリーグ U17代表 U18代表	IH、WC トップリーグ U18代表 U19代表	リーグ インカレ U19代表 U20強化	リーグ インカレ U20強化 U22代表		
対象者		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
中間層 ミドルレベル以下 競技志向	目的							楽しさと身体能力・ 個人(集団)技術の向上 心の成長・動き習熟・ 楽しさの追求		個の育成 将来の土台を築く ポジションを決めない		技術戦術習得準備 ポジションを徐々に特化		高度な技術戦術習得 競争の楽しさ			より高度な技術戦術習得	
	バスウェイ 場=日常							(競技志向チームに近い) ミニバスチーム バスケスクール		中学部活、クラブ、BコースU15(U18)			高校部活、クラブ、BコースU18			BLG、WJBL NCAA、海外大学、クラブ 国内大学		
	バスウェイ 経験=年数回							U12全国 U12ブロック 都道府県大会 リーグ戦 都道府県DC ブロックDC	全中ブロック U15選手権 Bコース大会U15 リーグ戦 都道府県DC ナショナルDC	全中ブロック U15選手権 Bコース大会 U15 リーグ戦 都道府県DC ナショナルDC	U16国体 ブロックリーグ U16代表候補 U18代表候補	高校新人 ブロックリーグ U17代表 U18代表	IH、WC トップリーグ U18代表 U19代表	リーグ インカレ U19代表 U20強化	リーグ インカレ U20強化 U22代表			
対象者		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
エンジョイ層 レクリエーション志向	目的	遊びの感覚を大切に 身体を動かすことは 楽しい経験に		様々なスポーツとの出会い 楽しさと動き習得 心の成長・動き導入・ 楽しさの導入		様々な運動を行いながら 楽しさと身体能力・ 基本技術の向上 心の成長・動き習得・ 楽しさの習得		楽しさと身体能力・ 個人(集団)技術の向上 心の成長・動き習熟・ 楽しさの追求		個の育成 ポジションを決めない			戦術の学びとプレーする楽しさ			プレーする楽しさ 仲間との関わり コミュニティ		
	バスウェイ 場=日常	幼稚園・保育園 幼児用スポーツ教室		小学校1/2年 スポーツ教室		小学校3/4年 ミニバスチーム バスケスクール		小学校5/6年 ミニバスチーム バスケスクール		中学部活、クラブ、スクール			高校部活、クラブ			国内大学 サークル 社会人クラブ		
	バスウェイ 経験=年数回	イージーバスケット フェスティバル等		ミニバスによる フェスティバル等		各種ミニバス大会 フェスティバル等		U12全国 U12ブロック 都道府県大会 リーグ戦		全中予選 U15選手権 リーグ戦			インターハイ ウインターカップ リーグ戦			サークル大会 都道府県社会人リーグ		

育成マインド: http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/Vol8_B4L_20200924.pdf

3. 2022年の方向性 <説明> 20分

①U15選手権（2022年1月）

→ 当該年全中都道府県（北海道）+ 次年全中都道府県（香川）+ 関東近県

②全国ミニ（2022年3月）

③マンツーマン推進講習会（2022年4月）

→ マンツーマンコミッショナー映像

→ マンツーマン指導資料

→ 学ぶべき個人技術戦術、グループ戦術 = 「なぜマンツーマンが必要か」

④全中ブロック、全中（北海道）

【総論】

「マンツーマンかゾーンかを判定すること」がコミッショナーの役割である。
マンツーマン推進を考慮しつつ、基準規則に準拠した役割を果たしていくこと。
コミッショナー配置は当面継続する。
指導者へのマンツーマンディフェンスの指導法を周知するため資料を作成する。
マンツーマンコミッショナーの研修に役立つ講習資料を作成する。

【U12】

全国ミニバスケットボール大会、ブロックミニバスケットボール大会において
コミッショナー配置を実施。
厳しく取り締まる方向性ではなく、「技術不足は罰しない」方針を確認する。

【U15】

「心情を加味せず、現象面を捉えて判定すること」を継続する。
全国U15選手権、全中ブロック予選、全中においてコミッショナー配置を実施。
特に指導者へマンツーマンディフェンスの指導法を周知するため資料を作成する。

1. これまでの方針を継続

①2018/12/15

- 方向性
- プレーヤーに獲得させたい土台
 - 1) オンボールオフense : 1対1での突破力、判断能力の向上
 - 2) オンボールディフェンス : 1対1で守る力
 - 3) オフボールオフense : スペーシング、動きのタイミング（合わせ）
 - 4) オフボールディフェンス : ビジョン（ボールとマーク）、ポジショニング、予測力
- ゲームモデルの周知
- マンツーマン・ゾーンを見分ける重要な視点

②2019/12/15

- U12：技術不足を罰しない
- U15：心情をはさまず判定をすること
オフボールディフェンスのポジショニング・ビジョンをよく見ること

2. 育成マインドを知り、マンツーマン推進に活かす

- 1) フェアプレー精神を指導者/プレーヤーに浸透させる
- 2) マンツーマン推進事業を継続する
- 3) 指導者はマンツーマン推進事業の目的を再認識する
- 4) 指導者は基本技術の重要性の理解を深める
- 5) 指導者は育成世代で学ぶべきゲームモデルの理解を深める
- 6) コミッショナーは統一した見解を持つために情報共有を図り研鑽を積む

■プレーヤー・指導者ともにフェアプレー精神を持つ

ルールの間隙を狙うのではなく、目的を理解し、プレーヤーにフェアプレー精神を伝えよう

- ルールを守る = 決めたことを守る
- 審判に従う = コミッショナーに従う
- 相手をリスペクトする = ルールの中で全力を尽くす相手を尊重する

「マンツーマンを使って勝負をする」

■指導者はプレーヤーの将来を見据えた指導を行おう

- 強い「個」を作る必要があるので、指導者にマンツーマンを指導してもらおう

「ゾーンをするのは育成世代の目標から外れている」

「育成世代の勝利/成功は、勝敗だけでなく、将来の成長スピードを高める土台を身につけることでもある」

■ なぜマンツーマン推進が必要となったのか？

- 世界に通じるトップ選手を作り出していくため
- そのためには個の強化が必要であり
- 育成世代においてはまず個の強化の土台の構築が必要
- 勝利を得るためには組織的ディフェンスが効果的な年代
- 勝利よりも優先してやるべきことがあるのが育成年代

■ マンツーマンが必要である

- マンツーマンができないと選手としては成長スピードが遅れる
- ゾーンディフェンスはあるレベルを越えると通じにくくなる

■ 施策の今後

- 1) 育成世代の選手に求めるものは「個の力の獲得」であり、選手の将来を鑑み、選手の土台作りとしての要素を高めるためにも、この施策は継続して実施する方向である
- 2) プレイヤーがどのような能力を高めなければならないかを考えると、ゲームモデルについての理解を深めることも必要である。どのようなオフENSEを行えばディフェンスを崩せるのか、ヘルプが強いタイプに対してどのようなアタックが有効か、ハーフコートトラップに対しての対抗策や、トラップを突破するための個人技術の理解などを深めることにより、現状より進んだスタンダードが得られるものと考えている。

■ 「なぜ？」

- 1) ゾーンを4Qのみ許可することの要望について、これを許可すれば練習において準備をすることが必要となり、基本技術を学ぶ時間が削られる事がマイナスと考える。よって現状認めない方向である。
- 2) 高校世代でゾーンに慣れていないためマイナスとなるとの指摘について、「マンツーマンの土台があれば、高校においてゾーンアタックを習得することは比較的容易になる」と技術委員会との意見あり。

■ ゲームモデルの段階

- 1) 1対1重視：突破を図ることを狙う段階 (ペイントアタックの意識、突破技術を磨く)
 - ドライブ&キックが必要→スペーシングを指導
- 2) 1対1重視：パス&カットで人を動かし、ボールを動かすことで突破を図る段階
 - ディフェンスが強くなるので、動いてズレを生み出す
 - ボールをつなぐスポット、タイミングの指導
- 3) 1対1、2対2：パス&カットの中からオフボールスクリーンを利用する段階
 - スクリナーのセット技術の指導
 - スクリーンを使うユーザーの技術の指導
 - スクリーンを使う必要がなければスペーシングを取ることを考えた方がよい
- 4) 1対1、2対2、3対3：相手のディフェンス力が高まり、自力で突破できない時にオンボールスクリーンを使って突破を図る段階
 - オンボールスクリーン・ボールマンの技術
 - オンボールスクリーン・スクリナーの技術
 - オンボールスクリーン・ヘルプサイドのスペーシング及びプレー

■ 重要な視点

1) マッチアップしているか、マッチアップしようとしているか

（人=マンツーマン、場所=ゾーン／エリア）

→オフェンスのスタート

→カッティングについていくか

→トラップの後

→ペネトレーションに対するヘルプの後

2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン（ボールとマークマン）を取ろうとしているか

4. マンツーマンコミッショナーの対応

5. ブロック別ディスカッション

5. ブロック別・意見交換 <ディスカッション> 20分

- ①組織化：ブロック幹事、都道府県内U12/U15担当者の確認、U12/U15部会長との連携
→ 確認、決定

- ②指導者連携（都道府県内周知）の課題
→ マンツーマンの理解を深める事が課題。
→ 成果が出ているところがないだろうか？講習会の実施状況等。

- ③コミッショナー対応の課題
→ 質問を出してもらい、別途対応

ゴール：課題・よい取り組みの共有（実情を出し合う）

U12/U15の両面から検討頂ければ幸いです。

発表はブロック幹事よりお願いいたします。

発表時間の目安は3分程度でお願いします。

6. ディスカッションの発表

6. 発表 20分

- ①ブロック別発表（3分以内目安）